

「教員のための金融教育セミナー」

実践報告配付資料

新潟県立巻等学校

1 本校における金融教育の目標

(1) 本校の現状

本校は明治 39 年に新潟県立新潟中学校巻分校として設立され、明治 40 年に新潟県立巻中学校として独立しました。平成 18 年に創立 100 周年を迎え、平成 23 年には新校舎が完成し、全校生徒 950 人余りが学んでいます。

本校の特徴は、文武両道をモットーにした教育活動の実践であり、毎年国公立大学へ 80 名を超える生徒が進学し、卒業生の 80% を超える生徒が 4 年制大学へ進学している、県内でも有数の進学校であります。また部活動も盛んで野球部、男子バレーボール部、ラグビー部をはじめ、多くの部活動が県大会で上位に進出する成績を残しています。

そのため生徒の中には、学習面においては日々の課題や週末課題などに追われて、なかなかじっくりと考えて問題を解くようなことがなく、読書時間も少なく、新聞に目を通す時間もあまりない生徒が見受けられます。このようなところから学問のおもしろさ、知的好奇心を充足する工夫、社会と自分との関わりなどについて考えることが苦手な生徒がいることも確かです。

(2) 本校の金融教育の目標

そこで本校の現状を踏まえ、今回は金融教育の目標を「**金融教育を通して自分の生き方・在り方を考察させ、主体的に行動し、自らの課題を解決する力を身につけさせる**」ということにしました。

【平成 25 年度】

「アベノミクスによるわが国の経済動向を株価・為替相場・金利・失業率・投資などの動きを中心に理解させ、将来の進路選択の一助として、自らの課題を解決する力を養う」

【平成 26 年度】

「自らの進路実現を確実なものにする過程で、グローバルな視点とリージョナルな視点を併せもつ人材を育成するとともに、正義や公正について考えさせる」

(3) 目標の設定理由

本校の現状でも述べたとおり、文武両道を実践する中で、学習に追われる生徒が増加する傾向にあります。私自身、生徒が与えられた課題をただこなすだけの学習習慣になってしまっている、教員にやらされている、学習が受け身になっている生徒が気になるようになっていました。学習指導要領で求められている学力「生きる力」がこのような取組の中で本当に身に付くのだろうか、疑問を持つようになっていました。

そこで生徒に**5年先、10年先の将来像を描かせ、職業観を涵養させながら、現在の自分は「何をしなければいけないのか」「10年後の自分に結びつけるためにはどのように行動しなければならないのか」ということを考察させる**ことによって「学ぶ意欲」を高め、確かな学力を身に付けさせようと目標を設定したのです。

2 2年間の活動実績報告

(1) 平成25年度活動実績報告

月	活動実績	実施教科・学年等
6月21日	金融教育協議会参加	研究主任
8月22日	教員のための金融教育セミナー参加	研究主任
10月2日	新潟県金融教育協議会（五泉市立十全小学校）参加	担当教員等
12月19日 20日	新潟税務署広報官による租税教室を開催	政治経済 （一年次）
2月13日 14日	総合学習「白楊クエスト」の一環として大学進学についての調べ学習を実施 入学願書提出から大学入学までの費用や大学四年間を一人暮らしした場合の費用を調べさせる。 総合学習「白楊クエスト」	総合学習 （二年次）
3月6日	大学進学のためのマネープランについて考える。 一年次に学習した「市場経済」や「金融」について、身近な問題として大学授業料をどのように準備するのかを考えさせ、将来の人生設計の重要性を認識させた。	総合学習 （二年次）

① 総合的な学習「白楊クエスト」における調べ学習

(ア) ねらい

2年次生を対象に大学受験から大学卒業までの費用を各自の受験スタイルに合わせて調べさせました。生徒は「大学受験」といわれても「勉強のみしていればよい」と考えてしまうものがほとんどです。しかし、志望大学を決めて大学を受験するためには、まず受験料の払い込みが必要になりますし、国公立大学を受験する場合に

はセンター試験を受けなければならず、この受験料も払い込まなければなりません。もっというならば、参考書や問題集、模擬試験の費用まで「大学受験」のための費用ということになります。

このように大学に合格するためには学力を向上させることはもちろんですが、受験のための費用を工面・用意しなければならないのです。この費用を自分で用意する生徒はまずいません。多くは保護者から支払ってもらうことになるわけですが、実際には大学合格後の生活費の一部を学生支援機構の奨学金をはじめ、各種奨学金やアルバイトで工面・用意する生徒・学生は多いのです。しかし、奨学金といえども給付型のもはまだまだ少なく、将来にわたって返済しなければなりません。その際、当然ですが有利子型の奨学金は貸与された金額より多く返済しなければなりません。そのため金利（利子率）の変動が返済額に大きく影響を与えます。そこで総合的な学習の時間では、この**金利に影響を与える要因について理解させる**ことをねらいとしました。

そしてもう一つ考えたのが、この調べ学習をとおして**生徒の勉強に対するやる気を引き出す**ということでした。自分が大学で勉強するのにどれくらいの費用がかかるのかを理解した上で充実した高校・大学生活を送ってもらいたかったのです。よく大学の授業料を人間への投資と表現することがありますが、まさにそのとおりで、生徒には保護者がどれだけ多額の費用をかけて（投資して）いるのかを知ってもらうことが、大切であると考えたからです。

（イ）内容【大学受験から入学までにかかる費用について調べる】（資料1参照）

まず、ここでは「高校3年生が実際に大学を受験して入学するまでにかかる費用」と、「大学4年間の授業料や生活費」に分けて考えていくことにしました。本校では3年次生の93%余りがセンター試験を受験するので、ここから調べさせることにしました。さらに私立大学を併願する生徒も多いので、私立大学の募集要項代金（実際には無料で入手できることが多いのですが）、私立大学受験料、国公立大学受験料、そして意外に忘れてしまいがちなのが大学受験のための交通費です。東京まで受験に行く場合、新潟駅と東京駅間を新幹線で往復すると約2万円かかります。前泊すればそこに約1万円が上乗せされ、東京へ1回受験に行く場合約3万円がかかることになるのです。最近は保護者が同行するケースも多いようで、2人で行けば倍の金額になります。そして併願私立大学に合格した場合、国公立大学に必ず合格するとは限らないので、不合格であった場合を考え、入学しても良いと考えている私立大学には入学金を払い込み、入学する権利を確保しておかなければいけません。これも生徒にはあまりピンとこないようで、説明しないと理解できないようであります。以上の内容を各自が考えている受験スタイルに合わせて調べさせ、感想を記入させました。

(2) 平成 26 年度活動実績報告

月	活動計画	実施教科・学年等
6月19日	新潟税務署広報官による租税教室を実施 新潟税務署の方から税をとおして財政について 学び、自身の生き方・考え方を深化させた。	政治経済探究 (三年次)
6月25日	職業講話の実施 職業を10～13分野程度に分け、同窓生から講話 をしていただいた。	総合学習 (一年次)
8月21日	教員のための金融教育セミナー参加	担当教員等
9月上旬	「こんにちはの労働問題」(授業)	政治経済探究 (三年次)
9月中旬	「企業のグローバル化と南北問題」(授業)	政治経済探究 (三年次)
10月9日	職場訪問の実施 職業講話のグループを中心に13の職場や大学を 訪問した。	総合学習 (一年次)
11月5日	元海外青年協力隊員による講話を実施	政治経済探求 (三年次)
11月19日	金融教育協議会・公開授業(本校会場)	政治経済探究 (三年次)

① 総合的な学習の時間「白楊クエスト」におけるキャリア教育

(ア) ねらいと内容

現在日本の就労形態で約3割を占めているのが非正規雇用であります。平成27年3月大学卒業の就職内定率は10月1日現在68%とリーマン・ショック前の水準に回復しましたが、正規雇用で採用されているとは限らない状況にあります。そこで公民科学校設定科目「政治経済探究」で様々な労働問題を学習するとともに、**総合的な学習の時間で職業観を涵養し、進路決定の確立**のため「職業講話」、「職場見学」を実施しました。

平成25年度の取組で2年次生を対象に大学生生活に係る費用を調べさせましたが、「なぜ大学に行くのか」、「大学で何を学ぶのか」など、根本的な課題について1年次生のうちから考えさせた上で、大学生生活に係る費用を調べさせた方がより効果的であると考えたからです。

そこで6月に「職業講話」を、10月に「職場見学」を実施しました。

(イ) 職業講話の実施

○日 時 平成26年6月25日(水) 14:50~16:10 (80分)

○対 象 本校1年次生 321名

1年次生を12グループに編成し、1グループを20~50人程度とする。

- 内 容
- ・どのような仕事をしているのか。
仕事をする上で、どのような知識や技術が大切か。
どのような心構え・態度が大切か。そのようなやりがいがあるか。
 - ・1のスケジュール・様子について。
 - ・大学で、どのようなことを勉強したか。
 - ・後輩へのメッセージ

○分野と講師 (略)

○職業講話を実施しての考察

- ・高校1年生の時点で自分の将来、特に職業について明確な目標を持っている生徒が少ない。
- ・様々な分野の方から講話をしていただいたが、共通する内容(具体的にはコミュニケーション能力や大学の学問と職業との関連)が多くある。
- ・講話内容から普段の高校生活の大切さ(挨拶、思いやり、言葉遣い、勉強等)を知ることができた。

以上のようなことから、今回のねらいであった職業観の涵養と、進路決定の確立に一定の成果が見られました。ただ、**反省点として生徒に自己評価を求めなかったために、数値的なデータが不足してしまいました。**今回の「職業講話」を客観的に評価することができず残念な結果となってしまいました。

(ウ) 職場訪問の実施

職場訪問の実施内容は以下のとおり。

○日 時 平成26年10月9日(木) 14:00~16:00

○対 象 本校1年次生 320名

職業講話のグループを基本とし、その後志望学科の変更があった生徒に希望を調査して決定

○内 容 1 施設(職場)見学

2 講話

○業務内容について

- ・現在の仕事内容
- ・現在の仕事に就こうとしたきっかけ
- ・現在の仕事が社会にどのように役立って（貢献して）いるか
- ・現在の仕事の魅力について

○進路選択についてのアドバイス

- ・大学で勉強した内容が今の職業にどのように役立っているか。
- ・大学（高校）で学んでおくべき内容は何か。
- ・役立つ資格や免許

「職場訪問」では**実際の職場を見学することで、官公庁や会社の中でも多様な職種があること、施設・設備や商品に直接触れることで大学における学問探究につながること、そして職場の雰囲気を感じること、をねらいに実施**しました。

なお、もう一つこの職場訪問のねらいで取り入れたのが、**地場産業の理解**という点でした。新潟県には世界に誇る素晴らしい技術を持った企業が数多くあります。しかし生徒は大学へ進み、就職のことを考えるようになると、大手企業をまず考えるようです。そこでグローバルな視点を持った地場産業を見学先に入れることで、生徒の視野を広げ地場産業を理解してもらおうと考えたのです。

○職場見学を実施しての考察

職場見学により職業についてのイメージを膨らませることができ、これから何を身に付けなければいけないのか、という課題も見えてきたようです。今回のねらいであった「会社には様々な職種がある」こと、「大学における学問探究に結び付けること」そして「地場産業の理解」という点でも生徒はきちんと理解できていたようです。

今回1年次生で行った「職業講話」「職場訪問」が、2年次以降の選択科目選びや学部学科研究につながっていくことに期待したいと思います。